１２月セミナーを１２月７日(土)　１３：３０～１５：３０に行いました。

会　場　　愛知文教大学　２０１教室
テーマ　　「学び合う理科の学び」
授業者　　岩倉市立南部中学校　　川口靖貴先生
コメンテーター　学び合う学び研究所ﾌｪﾛｰ　倉知雪春先生

今日のセミナーで学んだことの中で重要だと思ったことは、学校全体で取り組む現職教育です。 校長をはじめ、多くの同僚が一緒になって学んでいる様子が感じられました。その雰囲気の中で、若い教師が、あれだけの授業に取り組めていることが素晴らしいと思います。 共有の課題とジャンプの課題の取扱い方の難しさをいろいろな参加者の言葉から学ぶことができました。 特にコメンテーターの倉知先生の分析は、とても分かりやすく長所や課題が明確になりました。子供たちがいきいきと授業に臨んでいる姿勢は、日ごろの学校の現職教育の成果だと感心しました。とてもさわやかな気持ちで参加することができました。ありがとうございました。
今日のセミナーで学んだことの中で重要だと思ったことは、子どもたちは納得したがっているということです。 本日のセミナーで拝見した、南部中学校の子どもたちの、学びにのめりこんで行く姿に感動しました。特にジャンプの学びにおける彼らは、自分で説明したいという気持ちがにじみ出ていました。子どもはたちは、どの子も学びたい、理解したい、納得したいと思っています。その欲求に応える授業に挑戦し続けることは、教師の学びにもなります。川口先生の姿から、そんなチャレンジ精神の一端を見せていただきました。また。教務の高岡先生のお話も、大変興味深く聞かせていただきました。職場の同僚性をいかに生むか、その実現に向けて、考えられることはひるまず挑戦してみる積極的な学校改革が語られていたように思います。大変勉強になりました。ありがとうございました。
今日のセミナーで学んだことの中で重要だと思ったことは、単元の目標と当日の授業の目標の整合性です。 小牧市で学習支援員をしております。 川口先生、本日の実践授業、有難うございました。そして、お疲れさまでした。 同じ理科教員であったことから気の付いたことを、3 つの観点から述べさせてください（焦点がずれていたら、ゴメンナサイ)。 First:本日の授業のみを独立させて、実践を振り返った場合（本日の参加者にとってはこれにあたるわけですが)。コメンテーターの倉知先生がご指摘のように、前半は、前の実験授業のまとめであり、＜学合う学び＞に相当する展開は、後半のジャンプ課題の部分だけになるかと思います。 Second:本日の授業の狙い（＝目的）に絞って考えてみた場合。今回の発表では、この部分についての先生からのご発言がありませんでしたので、私は、「＜消化酵素は食べ物を小さく分解する＞ことを理解できる」と設定してビデオを視聴させていただきました。発表後の個人の感想として述べさせていただいたように、この観点から振り返ると、ジャンプ課題のところで、

生徒はこのことを踏まえていたのだろうかと疑問に思いました。ゼラチンの合成方法に授業を持って行かれるのなら、消化分解酵素の授業に繋がる理由をしっかりと生徒に説明しておくべきではなかったでしょうか。確かに、生徒は活発に調べて話し合いをしていましたが。

Third:各時間の授業には、底流に「単元」という大きな流れがあります。この授業の場合は、「消化と吸収」ということになると思うのですが。「この単元を教える狙い」という観点から考えた場合。個人の感想のところで、私は、「何のために分解するのか」という表現を使いましたが、生徒がそのような視点を持ってこの授業に臨んでいたのなら、もっともっと展開が違ってきたのではと思います。

全体を振り返って、生徒の学び合いにおいても、「教師の手助け」は重要であるというのが私の考えです。その観点から、場面 30 の 6D さんの発言は、私なら、「良い発言ですね」と、さりげなく褒め称えた上で、授業の狙いである「＜消化酵素は食べ物を小さく分解する＞ことを理解できる」を、全員に再確認させたいと思います。

いずれにしても、生徒が「栄養素の吸収」について、どのような具体的なイメージを持っているのかが知りたくなりました。差し支えなければ、教えていただけませんでしょうか。

今日のセミナーで学んだことの中で重要だと思ったことは、学びの作法です。

学びの作法をもとに、全校的に取り組んでいるのは素晴らしい。4 項目の「最後まで切り捨てない」の「切り捨てない」は上から目線の印象があり、検討の余地があると思いますが。

教師主導のワークシートが授業の中心、外国籍の子どもをはじめ参加できていない生徒がいる、ジャンプの課題を追究する手掛かりの不足、タブレット検索で答えを求める・・・協議で指摘されていたことは、繋がっているように思われます。それは、言葉による推論（のみ）でジャンプの課題を考えさせようとしていたことにあると思われます。

考える材料になるものが、生徒たちの中に具体的にはっきりしていなかったことにあると思います。3 分クッキングをタブレットに送る、いっそのこと同様にフルーツゼリー作りを行う、などの手段で、まず生徒の中に追究する共通材料が必要です。その上で、推論（フルーツの種類なのか、温度なのか、ゼラチンなのか・・・）を戦わせることができたら、と勝手に考えてしまいました。

外国籍の生徒の日本語は、取り出しの日本語指導だけではものになりません。授業の中で教科の日本語を使いながら聴き合う（これが学び合う学びのグループ活動）ことでしか、育たないことを痛感しています。協同的な学びができる子どもたちですから、それは可能だと思います。全員が参加できる授業にする上で、外国籍の生徒たちが参加できるようにすることは、授業参加が難しいと思われている子どもたちへの指針となるはずです。

今日のセミナーで学んだことの中で重要だと思ったことは、ジャンプ課題に対して「やった！」という素敵な声をだせるような授業の在り方です。

川口先生の学び合う授業への熱い挑戦と思いが伝わってきました。特に印象に残ったのが生徒は最後まで授業に参加していた姿とジャンプ課題に対して調べてみたいという気持ちが表れた「やった！」という生徒たちの言葉です。そんな授業をしたいな。月曜から気持ち新たに授業実践をしたいなという気持ちにやりました。また、高岡先生からは組織の在り方や先生の同僚性を構築したいという思いに共感しました。私も授業を中核にした同僚性をもっと構築し

たいと思っています。本校も外国にルーツを持つ生徒が多い学校です。互いに学校を越えて授業を見合える関係が築けるといいなと思っています。学びの多い時間を有難うございます。
今日のセミナーで学んだことの中で重要だと思ったことは、同僚性・ヨコの関係です。 倉知雪春先生、川口先生、岩倉南部中の先生方ありがとうございました。 アクシデントがあっても、全く動じず、グループの仲間との話に夢中になって没頭していました。 また、先生方も子どもの声を少しも聴き逃さないように、川口先生に子どもの声や学びをすべて届けようと、子どもの目線になって、しゃがんでおられました。 さらに、子どもの学びを聴き合う会でたくさん出ていましたが、岩倉南部中の学びの作法が子どものからだからしっかり表出していました。 先生方のおかげで、ちょっと忘れかけていた大切な何かを再び学びなおしたような気がしています。 リフレクションして、言葉にして、学びの履歴に残したいと思います。これからもいっぱい学ばせてください。ありがとうございました。